

[成果情報名] 施設栽培モモ「日川白鳳」の果実大きさの時期別目安

[要約] 施設栽培モモ「日川白鳳」果実階級毎の果実直径の目安値を時期別に作成した。この目安値を用いると収穫時の果実階級が大よそ予測できる。

[キーワード] 施設栽培、日川白鳳、果実階級

[担当] 長崎果樹試・生産技術科

[連絡先] 電話0957-55-8740、電子メールs26700@pref.nagasaki.lg.jp

[区分] 果樹

[分類] 指導

[背景・ねらい]

果実肥大が予測できると、摘果の程度や新しょう管理等の樹勢の調節が可能になり、より大玉果生産に有利になる。そこで施設栽培モモ「日川白鳳」の経時的な果実肥大パターンを把握し、時期別に果実階級の目安を作成する。

[成果の内容・特徴]

- 1．満開40日後に果実縦径40.1mmかつ横径32.1mmかつ側径30.7mm以上の大きさである果実の収穫時の階級はL以上になる確率は約90%以上である。他の階級も同様の関係である。満開後の任意の日の果実縦径かつ横径かつ側径が目安値以上であると目標階級以上になる確率が高い(表1、図1)。
- 2．満開60日以降の果実側径と収穫時の果実階級適合率は約80%以上になる。果実横径および側径とも収穫期に近いほど階級の適合率は高くなるが、縦径は満開70日以降はやや低下する(図1)。
- 3．モモの果実は硬核期以降に急激に肥大するため、硬核期終了期頃の果実肥大は果実の個体差が大きく、満開55日後頃の果実横径及び側径の変動係数は高くなり、この時期は果実階級の適合率がやや低い(図1、図2)。

[成果の活用面・留意点]

- 1．無加温栽培、共台における調査で、適度な樹勢の樹における肥大の推移である。
- 2．果実肥大は樹冠上部が大きく、樹冠下部では小さいので摘果時期や程度は留意する。

[具体的データ]

表 1 日川白鳳の満開後日数と各階級の果実直径の目安 (mm)

	階級	40日 ^z	45日	50日	55日	60日	65日	70日	75日	80日	収穫期
果実縦径	L ^y	40.1	43.3	44.6	46.8	49.7	52.8	56.9	61.5	67.1	73.8
	M ^y	39.5	42.3	43.6	45.3	47.9	51.1	55.2	59.5	64.6	70.4
	S ^y	38.4	41.4	42.3	43.8	46.2	48.8	52.6	57.0	62.1	67.9
果実横径	L	32.1	35.8	37.5	40.1	43.8	47.7	53.6	60.1	67.7	77.0
	M	31.8	35.4	37.1	39.9	43.2	46.8	51.6	57.1	63.2	69.9
	S	30.5	33.9	35.7	38.2	41.2	44.3	48.5	53.8	59.4	65.8
果実側径	L	30.7	34.5	37.0	40.2	44.1	48.2	53.8	59.7	66.9	75.9
	M	29.4	33.0	35.1	38.0	41.8	45.6	50.5	56.3	63.3	71.5
	S	27.7	31.5	33.7	36.7	40.0	43.4	48.0	53.4	59.6	67.0

^z 満開後日数

^y 全農長崎出荷基準 (L : 200 ~ 250g未満 M : 170 ~ 200g未満 S : 140 ~ 170g未満)

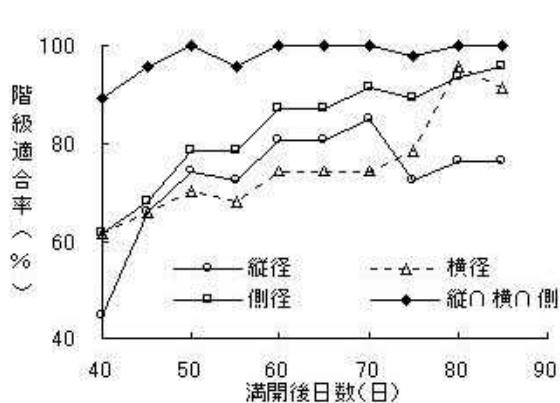


図 1 M級果実の階級適合率の推移

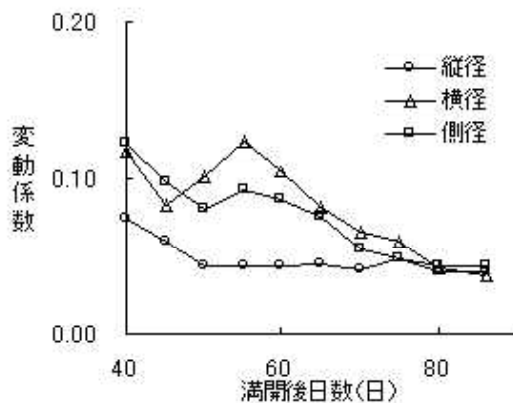


図 2 M級果実の変動係数の推移

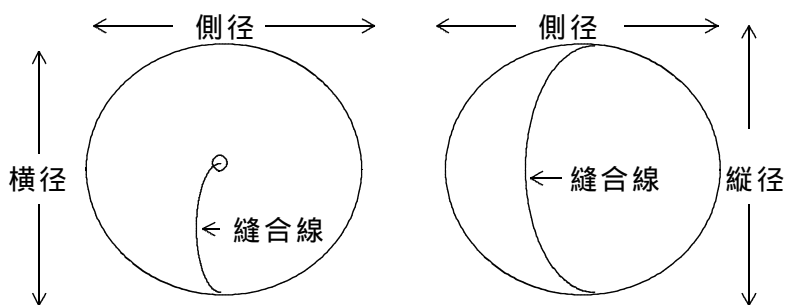


図 3 モモの上面図および横断面図と呼称

[その他]

研究課題名：気象及び樹体情報による本県の地域特性を活かした落葉果樹生産技術の確立

予算区分：県単

研究期間：2002～2006年度

研究担当者：田中 実、林田誠剛、松浦 正